

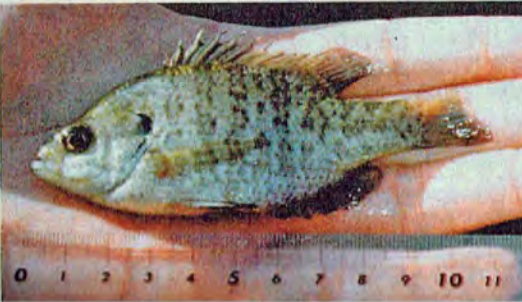
池の水抜いたら消えた

ブラックバス 1000匹
ブルーギル 1万匹

東京都と地域住民が協力し、外来魚の駆除に取り組んでいる都立井の頭公園(武蔵野市、三鷹市)で、ブラックバス(オオクチバス)とブルーギルの姿が消えた。池の水を抜いて底を天日干しする「かいぼり」を繰り返した後、約1000匹いたブラックバスは3年以上1万匹を超えていたブルーギルも1年以上見つからない。根絶に成功した可能性もあり、外来魚の駆除法として、強い有効性が示された格好だ。【大久保昂】



今月15日、新緑に包まれた井の頭公園。武蔵野市を拠点に自然保護に取り組むNPO法人「生態工房」のメンバーやボランティアの市民ら6人がボートで井の頭池(4・2秒)を巡った。外来種のアメリカザリガニを捕獲するためのわなを引



④水を抜いた井の頭池で生き物を捕まえるボランティアたち(2014年2月撮影、生態工房提供)
⑤ブルーギル(山下浩一撮影)

井の頭公園 都とNPOが駆除

き上げると、ナマズやテナガエビといった在来種が次々と出てきた。

「最近はずりガニ以外の外来種が捕まることは少なくなり、代わりに在来種が増えている」と生態工房の佐藤方博さん(46)。この日もブラックバスとブルーギルはいなかった。

井の頭公園は1917(大正6)年に開園。井の頭池では数年前までブラックバスとブルーギルが繁殖。いずれも環境省が特定外来生物に指定し、日本固有の生態系を破壊する可能性が指摘されている。

そこで都は、生態工房とタッグを組んで2014年1月から本格的な駆除に乗り出した。「かいぼり」で池の底を天日で干し、水質改善を実施。これに合わせ池の生き物を捕まえ、在来



種だけを池に戻すことにした。この時に捕まえた約2万匹のうち、ブルーギル(1万2712匹)やブラックバス(1177匹)などの外来種が8割以上を占めた。15、17年度の冬もかいぼり

「生き物学ぶ機会に」

「かいぼり」を通じて外来種を駆除する動きは全国に広がっている。14年1月の井の頭公園での活動が報道されたことが、プームのきっかけとされる。

拍車を掛けたのが、テレビ東京が17年1月に始めた番組「緊急SOS!池の水ぜんぶ抜く大作戦」。これまで約60カ所のかいぼりを紹介してきた。視聴率が10%を超える回もあるなど息の

【大久保昂】